

---

# 好きだから。

愛花

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

好きだから。

### 【Nコード】

N2526BA

### 【作者名】

愛花

### 【あらすじ】

好き過ぎて好き過ぎてどうしようもない感情を持ってしまった水花。

しかし報われない恋なので、諦めようとするが、やはり最終的には大好きな優翔を好きになってしまう。何年間も片思いしてきた水花は、このまま一緒にいるのもっと好きになってしまうので、涙の別れをしようと試みる。

くずつと片思い (前書き)

片思いって、本当につらいよね。

言葉にできない・・・

そんな思いを小説に書きました。

これはハッピーエンドかバッドエンドかはまだわかりません。  
水花が両想いになれますように・・・

## ずっと片思い

中学1年の入学式。

周りの友達は何、「かつこいい人居るかな」「いい人居るかな」なんて言ってる。

私は・・・私は、そんな事、絶対に言えない。

ほんとうみずか  
本堂水花12歳。

中1にして、本当の愛しさを知っている。

小1の時、恋をした。そのときから今まで、ずっと同じ人に恋をしている。

ずっと、「片思い」をしている。

好きすぎて、好きすぎて、どうしようもなくなたまらない気持ちを知ってしまった。

最高に大好きな人と出逢ってしまった。

今、私が好きな人よりいい人なんて絶対に、居ない。

あの人以外、絶対に、好きになんてなれるはずがない。

「いえーい。大樹、入学式だから写真撮ろうぜ ミ」

声の方を振り向くと・・・佐藤優翔さとうゆうせいが居た。

世界で、誰よりも大好きな人。

「ゆう・・・と・・・」呼んでしまった。

しかし、聞こえるはずがない。聞こえないように言ったのだから。

小1の時からずっと、この想いを隠して生きてきた。

友達は「告っちゃいなよ、勇気が無いの?」なんていうけど、

告白なんて、できるはずがない。絶対に、彼は私の事なんて好きじゃないのだ。

優しい言葉を言ってくれるけど、励ましてくれるけど、笑顔をくれるけど・・・

それは、好きだからしてくれてるんじゃない。誰にでもそんなことするんだ、きつと。

勇気とかそういう問題じゃないのだ。絶対に、優翔のそばに居るのが私なのは、許されない。

ただ、優翔のそばにいられたら、それだけで、幸せなんだ・・・  
優翔のただの友達でも、「良いヤツ」だけでも、いいんだ。  
恋なんか、しちゃだめだ。報われない恋なのだから。

どうして神様はいじわるなのだろう。

きつと誰よりも優翔の事を思って、愛して、好きでいるのに。

何で、一生優翔の隣に居る事ができないのだろう。

好きで好きで、たまらない。彼の事を考えるだけで、幸せでいっぱいになる。

好きの域を超えて、「愛している」になっている。本当に。  
そんなことを、思っていた。

すると、優翔が、「おい水花、お前も一緒に、俺と写真撮るかー！  
？」なんて言ってくる。

「うん。」

パシャツ写真を撮る。

「水花、中学でもよろしくなー！」

ダメだよ・・・よろしくなんかしちやいけな。もつと好きになっ  
てしまう。告白してしまう。

今の現状に満足できなくなってしまう。そんなの絶対、ダメだ。

私は、優翔と絶交でもした方が良さのかもしれない。優翔に「ブス」  
でも何でも、傷つく言葉を言ってもらった方が良さのかもしれない。

本当に、このままじゃ、気持ちコントロールできなくなってしまう。  
う。

好きだからこそ・・・私は、離れなければならない。

その覚悟を、決めようとする、が・・・どこかで、今のままでありたい、という心の声が聞こえる。

中学に入ったら、本当に優翔と離れなければいけない覚悟をしてきたのに・・・

すると、クラス分けの紙が配られた。

何て、何て神様はいじわるなのだろう。

これから、好き過ぎて好き過ぎて仕方がないけど、報われない恋だから諦めようと覚悟を決めていた片思いの相手と、同じクラスにするなんて・・・

くずつと片思い〜（後書き）

片思いの子、頑張れ!!!

初めて恋愛書いてみました。w

どうかな？w

アドバイス、コメント、非常に嬉しいです？

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2526ba/>

---

好きだから。

2012年1月6日14時47分発行